R7 楡木小学校　学校通信
No.１０

なりたい自分になる！

In 楡木サラダボウル
令和７年６月６日
文責　余宮

数字が並ぶとつい心が動きますね。あっ、私だけか…これもまた個性と受け止めてくださると嬉しいです

よい

先日の朝の出来事。１年生の教室では、６年生がいつものように優しく１年生の学習準備などを手伝っていました。でも、かなさんだけは準備を手伝ってはいないようです。みかさんはかなさんに、「早くやってあげたら？」と声をかけていました。それに対して、かなさん曰く、
「もう慣れたから（１年生のけんとさん自身で）できると思う。だから、困ったときに手助けすることにした。それがけんとさんにとってよいことだと思うから」
「へえ～、やってあげた方がよいと思っていたんだけど、やらないことがよいこともあるか。そうだよね。１年生も成長しているんだもんね」
とみかさん。場合によっては、やってあげないという手伝う方法もあるということかあ。
とっても素敵な場面に、私は出くわしたようです。
「よい」の意味を考えさせられました。
「よい」は、都合がよいの「よい」であって、本来個人的です。例えば、カラスの駆除。カラスは時にごみをあさり、街の中を汚してしまいます。春先には攻撃的にもなり、とても怖いと感じる人もいるでしょう。だから、カラスは駆除すべき、誰にとっても「よい」ことだととらえられがちです。
しかし、本当に誰にとっても「よい」ことなのでしょうか。
プロ・ナチュラリスト※の佐々木洋氏は、「多様性を知ること」が自然を親しむためには必要な第一の要素だと、次のように話を続けられています。

> 「自然は、いろいろなものが世の中にあることとと、いらないものは一つもないことを教えてくれます。例えば嫌われ者と言われているカラスには、自然界のバランスを取り、ごみなどを片付ける掃除屋的な役割があります。ですから、カラスが一羽もいなくなるとそのバランスが崩れ、大変なことになってしまいます」

なるほど、納得。
自分だけの「よい」に固執するがあまり、近視眼的な見方に陥ると、なりたい自分になる道は、細く脆弱な頼りないものになりがちです。他者の「よい」に寄り添い、時には自分の「よい」を捨て去る謙虚さと勇気も必要なのかもしれません。捨て去らずとも、他者の「よい」に寄り添うことで、自分の中に閉じこもった「よい」を相対化（＝見える化）することができます。そのような活動は、おのずと自分の中に在る「よい」を総点検し、調整し、真に善いものへと高めていくこともできるかもしれません。
言うは易しです。「よい」という自分の中にある価値観みたいなものは、案外こっちこちに固まっていることが常で、なかなか変えにくいものです。下手をすると意固地になり、違う相手に対して攻撃的にもなりがち。「はい、論破」なんていう言葉がいろんなところで聞かれていたことも事実。論破ではなりたい自分の追究もままならない。う～ん。残念。
だから、みかさんのように、自分の「よい」を顧みて、反省し、そして他者の「よい」にコミットできるしなやかな生き方は、とても素敵だと、私は思います。また、なりたい自分を見つけることができました。

※プロ・ナチュラリストとは、講演やテレビ出演、書籍などで、身近な自然から希少な野生生物まで自然解説を行うことを通して、子どもたちを中心に多くの人々に自然の不思議さや面白さ、ひいては自然保護を呼びかける活動を行う人々のことを言うそうです。